

科目名称(Course Title)				担当教員(Instructor)	
企業システム論				三品 勉	
開講学期 (Semester)	単位数 (Credits)	履修年次 (Requirement)	授業形態 (Class Type)	受講定員の有無 (Maximum Enrollment)	授業公開 (Workshop Class)
後学期	2単位	2年次	講義	有 ( 名)・無	科目等履修・聴講
授業の概要(Course Description)					
<p>経営工学の英語表記は多種にわたるが、世界で最も多く使われ、また歴史があるのはIE(Industrial Engineering)である。経営工学はもともと生産システムを主として扱うことから出発しているのがその理由である。現在では企業運営全体をその対象とし、効率的な経済活動を行う強力な手段として活用されている。本講義では伝統的に扱われている生産システムを例として取り上げ、生産システムの基礎知識と、その成り立ちについて解説する。生産現場ではどのような工夫と実践をして、我国各社が世界に誇る生産体制を作り出しているかを述べる。また新しい経営工学の概念についても説明する。</p>					
授業の到達目標(Course Objectives)					
<p>経営工学の概要を理解し、生産活動や役割の分析・促進に経営管理に関する諸手法が使われていることを説明することができる。生産システムの全体最適化の概念と、生産に関わる品質やコスト構造を理解することができる。需要予測・フレキシブル生産体制・SCM等の概念を述べることができる。</p>					
授業計画(Course Schedule)					
第 1 回	経営工学の概要－目的と対象範囲		企業活動の理解		
第 2 回	生産活動と経営管理				
第 3 回	流れづくりとしての生産システム				
第 4 回	流れの分析				
第 5 回	JITとTOC ボトルネックへの対応				
第 6 回	品質の概念				
第 7 回	コスト構造とCVP分析				
第 8 回	まとめと第1回目テスト				
第 9 回	生産の計画と統制				
第 10 回	フレキシブルな生産システムフレキシブルな生産システム MRP				
第 11 回	SCM				
第 12 回	需要予測とブルウィップ効果				
第 13 回	生産拠点の世界各地への分散				
第 14 回	外部講師による授業（講師の都合により第3～7回目に行く可能性がある）				
第 15 回	総まとめと第2回目テスト				
授業時間外学習(Supplementary Activities)					
<p>前回学習した部分と、次回に関わる分の教科書を読んでおくこと。多くの学説や用語が出てくるが、経営学をより深くかつ広く学ぶ際に役立つので、基本的なものは皆覚えること。変化している生産システム体系の流れを、その原因・結果・他への影響といったストーリー性を持って理解すると楽しく学べるので実践してほしい。</p>					

成績評価の方法と基準(Grading)	
評価方法 (割合)	評価基準
授業内テスト (100 %) 授業参加・レポート (α %)	テスト点数による学内評価基準を採用 議論・質問・コメントによる授業への参加・レポート (追加評価)
テキスト (Textbook)	【書名】 コア・テキスト生産管理 【著者】 富田・糸久 【出版社】 新世社 【出版年】 2015
参考書・資料等 (Supplementary Reading)	必要に応じて指示する
備考 (Other Information)	特になし
教員との連絡方法 (Contact With Instructor)	Eメール